

麦類の生育は平年並、一部では赤かび病の
発生が確認されています！
適期収穫、適正な乾燥調製を徹底しましょう！

1 作物名 麦類

2 発生現況

- (1) 作況試験は(古川農業試験場)における麦類の生育は、出穂期及び開花期はいずれの品種も平年並であり、今後の天候も平年並のため、成熟期は平年並と予想される(表1)。
- (2) 定点調査は(古川農業試験場)では、大麦及び小麦ともに平年より早く初発が確認された(表2)。
- (3) 5月下旬の巡回調査の結果、大麦は発生地点率及び発病穂率が平年より高かった(図1)。小麦は発生地点率は平年より低く、発病穂率は平年よりやや低かった(図2)。開花期以降に周期的に降雨があり、小麦では今後赤かび病の発病・病勢の進展が予想される。

表1 令和6年播種(令和7年産)麦類作況試験生育状況

麦種	品種	出穂期(月/日)		開花期(月/日)		成熟期(月/日)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
大麦	シュンライ	4/21	4/23	4/28	4/30	—	6/6
	ミノリムギ	4/24	4/28	5/2	5/4	—	6/9
小麦	シラネコムギ	5/2	5/3	5/14	5/13	—	6/22
	夏黄金	5/2	5/3	5/14	5/13	—	6/23

※作況試験は:古川農業試験場、播種日:令和6年10月18日播種
※平年値は過去7か年中の最高値と最低値を除いた5か年分の平均値

表2 定点調査における麦類赤かび病の初発日

麦種	品 種	初発日	
		本年	平年
大麦	シュンライ	5/12	5/20
	ホワイトファイバー	5/12	—
	ミノリムギ	5/14	5/22
小麦	シラネコムギ	5/21	5/30
	夏黄金	5/21	5/29

※定点調査は:古川農業試験場
※ホワイトファイバーは令和6年播種より供試のため1か年のみ

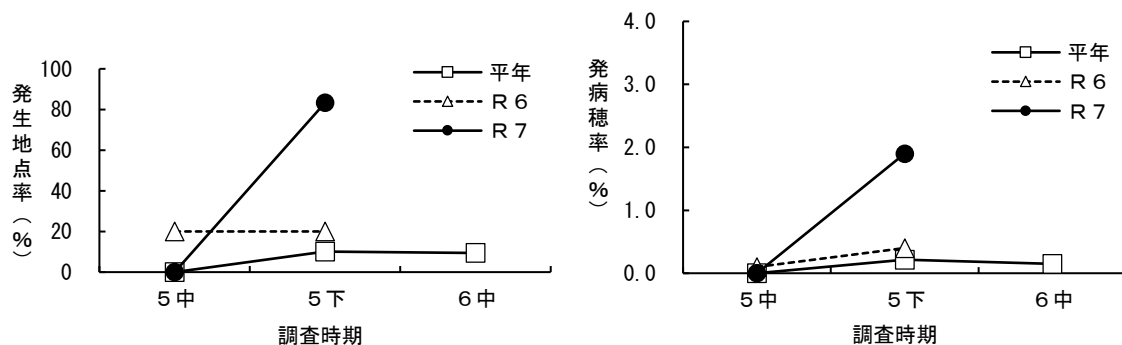


図1 オオムギ赤かび病の発生地点率と発病穂率の推移(病害虫防除所)

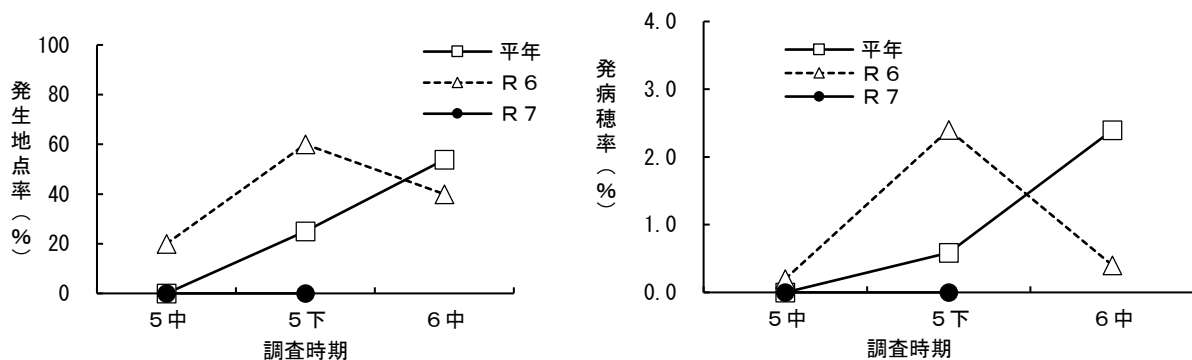


図2 コムギ赤かび病の発生地点率と発病穂率の推移(病害虫防除所)

3 防除のポイント

【小麦】

(1)「夏黄金」の薬剤防除は3回を基本とし、3回目は2回目の7～10日後に実施する。小麦の他品種についても、赤かび病の発生が目立つ場合は3回目の防除を検討する。

【麦類】

- (1) 本年は5月に周期的に降雨があり、赤かびの発病・病勢進展に好適な気象で経過していることから、刈り遅れのないよう適期収穫を行う(表1)。成熟期の子実水分はおおむね 32～45%で、登熟日数は大麦で出穂後約 40 日～45日、小麦では出穂後約 45～50 日である。
- (2) ほ場を見回り、発病が確認されたほ場は収穫時に刈り分けする(登熟後期は発病が見えにくくなるので注意する)。
- (3) 子実の過湿状態での放置は赤かび病菌が増殖する原因となるため、収穫後は速やかに乾燥作業を行う。
- (4) 赤かび病粒の除去に比重選別や粒厚選別が有効であり、併用することで、より効果的に除去できる。
- (5) 被害残渣(麦わらやこぼれ麦等)は早めに耕起し、土壌中にすき込むか、ほ場外へ持ち出し、次作の伝染源密度を低下させる。

～ムギ類赤かび病の農産物検査規格及びかび毒について～

農産物検査規格上、赤かび粒の混入は 0.0%以下(1万粒検査した場合4粒以下)と定められており、これを超えると規格外となってしまいます。

また、赤かび病菌は人や家畜に有毒なかび毒であるデオキシニバレノール(DON)やニバレノール(NIV)を産生し、日本では小麦に含まれる DON の基準値が 1.0ppm と定められているため、基準値を超えた小麦は食品衛生法上、流通することができません。

《お問い合わせ先》

宮城県病害虫防除所

〒981-0914 仙台市青葉区堤通雨宮町4-17

TEL:022-275-8982 FAX:022-276-0429

E-mail:byogai@pref.miyagi.lg.jp

★宮城県病害虫防除所から『メルマガ』で

発生予察情報の発表をお知らせしています★



宮城県病害虫防除所
トップページ



メルマガ
登録フォーム